



JSQC ニュース

No.305

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 品質の原点にかえり 先駆者の知恵に学ぶ
- 2-ルポルターージュ 第18回ヤング・サマー・セミナー
- 2-ルポルターージュ 第106回講演会
- 3-一般社団法人への移行について/8月の入会者紹介/第40年度事業計画
- 4-行事案内/新規研究会募集/研究助成募集のお知らせ

品質の原点にかえり 先駆者の知恵に学ぶ

玉川大学 大藤 正

品質月間の意義

毎年、10月は工業標準化推進月間で、続く11月が品質月間です。2010年で第51回目を迎える品質月間ですが、2007年の品質月間からSDCAサイクルの重要性を強調してきました。

それは、維持管理と改善管理の繰り返しによって確実な品質向上が図られるからです。アジア諸国の製品品質は、日本のそれと比して遜色ないといわれていますが、果たして本当でしょうか。日本の品質は本物品質ですが、日本以外のアジア諸国の品質は、そこそこ品質ではないでしょうか。

「創造の手段は模倣である。ただし、それは結果の模倣ではなく、プロセスの模倣である」とは、湯川秀樹博士の言葉ですが、日本のモノづくりでは、SDCAサイクルとPDCAサイクルを繰り返すプロセスを着実に実行して日本品質を実現したのではないのでしょうか。

一方で、品質月間活動によって一般消費者に、品質の重要性を理解して頂き、一般消費者の品質に対する厳しい目によって、日本品質が実現したのです。ここに品質月間活動の必要性があると思います。

品質の原点

第51回目を迎える品質月間のテーマは「品質の原点にかえり 先駆者の知恵に学ぶ」に決まりました。品質

月間委員会では「品質の原点」とは何かという議論がされました。第50回目の品質月間テーマでは「今、あなたにとって品質は？」という投げかけのテーマも考えました。

これは、「品質」について議論がされていないのではないかと懸念からの発想です。何故、石川馨博士が品質管理月間とはせずに品質月間としたのかについても関連します。

近藤良夫博士の『品質とモチベーション』の中に、「W.A.シューハートは、1931年に品質を①人間の存在に無関係な客観的実存、②客観的実存の結果として我々が思い、感じ又は知覚する主観的実存、とに分類した」という記述があります。

品質は価値ある何かなのか、品質にコストはあるのか、品質は安全より優先すべきことなのか、品質と納期とを比較すべき事柄であるのか、そもそも品質とは何かを考える機会が品質月間なのではないのでしょうか。

先駆者の知恵

経験経済という考え方がありますが、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉もあります。過去の苦い経験は、素晴らしい知恵を残してくれます。

温故知新は「故きを温ねて新しきを知らば、以て師と為すべし」という言葉からきており、前半部分の「故きを温ねて新しきを知る」という

解釈が普通ですが、「故きを温めて新しきを知る」という解釈もあります。

教育の育は「はぐくむ」という字ですが、親鳥が卵を羽で包み、卵を温めるという意味です。先人の知識を自らのものとするためには、「学びて思わざれば則ち罔し」という言葉にあるように、「思う」ことが大切なのではないのでしょうか。この思うということが温めることだと思います。

このようなことから、第51回目の品質月間テキストNo.373は朝香鐵一博士に執筆を頂きました。このテキストは三田征史氏と田中貢氏のご尽力によって実現されたものですが、副題に「先駆者からのメッセージ」とあります。

このテキストのまえがきに「消費者に喜んで買ってもらえる製品を生み出す「品質保証」とその手段である「品質管理」は、トップの強力なリーダーシップと、それを支える部課長の考えと行動が不可欠であり、極めて重要であることは、時代が変わっても不変であります」という一文があります。

半世紀を超えた、第51回目の品質月間を機に、品質管理と品質保証の違い、品質と「質」の違い、そして、そもそも品質とは何か、品質管理活動の意義は何か、などについて、課内で、社内で、公の場で議論してみたいかがでしょうか。

第18回 YSS ルポ

サンデン コミュニケーションプラザ

去る9月4日から5日にかけて、第18回ヤング・サマー・セミナー（YSS）が開催された。今年は(株)サンデン様のご好意により、サンデンコミュニケーションプラザで行われた。参加資格は35歳以下の正会員・準会員であり、今年は企業から2名、大学教員2名、学生24名の計27名が参加した。

初日は今回のテーマである「品質機能展開（QFD）」に関して、まず、ヤマハ発動機(株)の田井弘充氏に「Pre-QFDでの潜在要求の発掘ーコンセプト・マイニングを活用した新商品開発ー」という題目で、新商品開発におけるQFDの活用方法について講演いただいた。次に、山梨大学の渡辺喜道氏に「品質機能展開入門」という題目で、品質機能展開の背景、基本的な考え方や実際に展開を行っていく手順についてお話しいただいた。その後、玉川大学の藤正氏主催により、QFD

に関して意見交換会が行われ、先生と若手研究者の間で、意見や議論が活発に交わされた。そして、初日の最後には、名古屋工業大学の宮崎純平さんが「シミュレーション結果の下流再現性の向上」の発表を行った。

夕食後の懇親会では、参加者同士の親睦を深めるとともに、研究内容への意見交換などが行われ、有意義な時間を過ごすことができた。

翌日はまず、アルプス電気(株)の黒河英俊氏に「QFD思考のススメ～QFDの効能と実践事例」という題目でご講演いただいた。そして、東京都市大学の近藤賢太さんが「要求定義段階における認識の違いを減らすチェック表の提案」、東京理科大学の柴田龍平さんが「ノンレギュラー型16次アダマール行列における線点図の導出に関する研究」の発表を行った。最後に、日本IBM(株)の劉功義氏に「プログラム計画におけるQFDの適用」という題目で、発表していただいた。

YSSは今後の品質管理学会を担う若手研究者に重要な役割を果たしている。学会の皆様へ感謝すると共に、今後も多くの若手の参加を期待したい。

大室 陽（早稲田大学）

第106回 講演会 ルポ

インターナル・ ブランディング

2010年10月15日に、名古屋工業大学の加藤雄一郎氏による講演会が開催された。加藤氏はブランド戦略を専門としているが、企業ブランド価値創造に向けた経営システム最適化手法の開発をブランドTQMとして様々な発信を行っている。

加藤氏はブランド・プロポジションの設計について、現状状態を理想状態に持ち込む際に、実現根拠を考慮する考え方を示している。そして、今回の講演会では究極的な理想状態と製品・技術の特徴との関係を、理想、要求・期待項目、品質要素、機能、部品機構、技術資産の6層構造で表すVBridgeというフレームワークも示している。

これは、マーケティングパラダイムがSellingからMarketingに移行し、さらにBrandingに、つまり「できたものを売る戦略」から「ニーズに合ったものを売る

戦略」に移行し、さらに「売れ続けるための戦略」へと変遷し、マーケティングの強調点が“取引”から“関係性”に移行しているからであると主張している。

そして、企業ブランド価値を創造することの意義について、企業を取り巻く利害関係者を「価値を創る人」と「評価する人」に大別し、企業価値創造の担い手である顧客と従業員に焦点を当てて説明している。TQMにおいても顧客満足に焦点を当てて活動し、顧客の継続意向であるロイヤルティの重要性が論じられている。しかし、顧客の信頼を獲得するだけでは不十分で、将来を見通した「将来期待」と「共創要求」が重要な要素であるとしている。

さらに、ロイヤルティを支えている「信頼」と「将来期待・共創要求」という時制の異なる要素を考慮して顧客関係性を構築するために、ダニエル・ピンクの「モチベーション3.0」を引用し、内発的モチベーションの重要性を示唆した。これらの講演内容は、今後のTQMの発展のために貴重な一石を投じており、素晴らしい講演会であった。

大藤 正（玉川大学）

日本品質管理学会の一般社団法人(非営利が徹底された法人等)への移行について

公益法人法対応特別委員会

2008年の「新公益法人制度に関する法律」施行により、日本品質管理学会は時限の特例民法法人となり、2013年11月までに公益社団法人または一般社団法人のどちらかを選択して移行する必要が生じました。そのため、本学会に2008年12月に公益法人法対応特別委員会が設置され、主務官庁である文部科学省や日本学術会議が主催する説明会等への参加、他学会の動向を見ながら、情報収集に努めて、対応を検討してきました。その結果、学会の事業活動の自由度が確保できること、ある程度の税制的な優遇(収益事業のみに課税)が認められること、事務負担の問題、他の主要学会の選択事例を考慮し、本学会として「一般社団法

人(非営利が徹底された法人等)への移行を目指す」ことが、第39年度(2010年)の第383回の理事会にて承認されました。

今後は、第40年度中(2011年9月まで)の移行認可申請を目指して、定款変更案の作成、総会、理事会、代議員・役員選出などの機関設計、会計に関するシステムの変更(収支予算書の書式の新たな公益法人会計基準様式への変更等)、公益目的支出計画の作成等の作業を行います。つきましては、会員の皆様より忌憚のないご意見、ご要望をいただければ幸いです。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年8月の入会者紹介

2010年8月18日の資格審査において、下記の通り正会員9名、準会員11名の入会が承認されました。

(正会員9名) ○安藤 善一(東京カネカフード) ○米倉 千浩(ブラザー工業) ○田中 恵子(大阪府済生会千里病院) ○平

野 智也(ダイキン工業) ○阿部 剛(パナソニック) ○幡鎌 高士(NECアクセステクニカ) ○下田 拓司(ジェイテクト) ○藤本 環(パナソニック電工) ○中根久雄(放送大学)

(準会員11名) ○百々 大和(成城大学) ○中辻 一浩(大阪大学) ○夏木 崇(神戸大学) ○宮崎 純平・長谷川 雄基・中

村 光秀・長野 紗季・星野 勇人(名古屋工業大学) ○水関 裕人(大阪大学) ○日向 浩幸(中央大学) ○横山 敦(東京理科大学)

正会員：2544名
準会員：91名
賛助会員：158社184口
公共会員：23口

(社)日本品質管理学会 第40年度事業計画

行事 / 月	H22			H23										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
年次大会・通常総会	第40回 30日(土) 成城大学												第41回 28-29日(土) 中部地区	
研究発表会	本部							第95回 28日(土)						
	中部									第96回				
	関西										第97回			
講演会	第106回 15日(金) (本部)							本部 関西	中部					
ヤングサマーセミナー											第19回			
シンポジウム	関西支部 20周年 記念 シンポジウム (第133回) 8日(金)					第135回 (本部)		第40周年 記念 シンポジウム 27日(金) 電気通信大学		第136回 (中部) 第137回 (本部)	第138回 (関西)	第139回 (本部)		
事業所見学会	本部					第352回		第355回			第358回			
	中部					第353回			第356回					
	関西					第354回			第357回					
クオリティパブ		第72回 29日(月)		第73回		第74回		第75回		第76回		第77回		
その他の行事	8ANQ デリー (インド) 19-22		27日(月) 第1回 科学 技術教育 フォーラム									9ANQ ホーチミン (ヴェトナム) 27-30		
会合 / 月	H22			H23										
理事会	384回 13日(水)		385回 10日(金)	386回 28日(金)		387回 14日(月)		389回 23日(月)		390回 8日(金)		391回 21日(水)	392回 中旬	
庶務・会員サービス・規定・会計・広報 合同委員会	6日(水)		1日(水)	21日(金) or 19日(水)		8日(火) or 3日(水)		16日(月)		4日(月)		14日(水)		
論文誌編集委員会	5日(火)	2日(火)	3日(金)	14日(金)	10日(木)	10日(木)	5日(火)	17日(火)	15日(水)	12日(火)	—	1日(木)	4日(火)	
学会誌編集委員会	12日(火)		6日(月)											
事業委員会	14日(木)		21日(火)											

※論文投稿は委員会の開催10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

行事案内

●JSQC40周年記念シンポジウム・

第95回研究発表会（本部）

日 時：2011年5月27日(金) 28日(土)

会 場：電気通信大学

○記念シンポジウム（5/27 13：00～）

テーマ：

「グローバル化を見据えたモノづくりと人づくり」

プログラム：

開会挨拶

鈴木和幸氏

（JSQC会長、電気通信大学 教授）

基調講演

桜井正光氏

（株）リコー 代表取締役会長）

特別講演(1)

巖 浩氏

（イーピーエス(株) 代表取締役社長）

特別講演(2)

狩野紀昭氏

（東京理科大学 名誉教授）

パネルディスカッション

パネルリーダー：

中條武志氏（中央大学 教授）

パネルメンバー：

大沼邦彦氏（日立オートモティブシステムズ(株) 代表取締役社長）、
巖 浩氏、狩野紀昭氏、鈴木和幸氏

記念祝賀会（5/27 18：00～）

○第95回研究発表会 発表募集

(1)申込期限

発表申込締切：3月22日(火)

予稿原稿締切：4月20日(水)必着

参加申込締切：5月17日(火)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

2月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/本 部：E-mail: apply@jsqc.org

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2011年4月～2012年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。

http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2011年2月18日(金)必着

研究会の申請と運営：

- 研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。
- 研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
- 1研究会のメンバーは20人までとする。
- 会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。
- 時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。
- 研究会運営費は一人1回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

事務局からのお知らせ

第40年度研究助成募集要項

1. 趣 旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会、海外の若手研究者の招聘、国際会議への渡航も含まれます。

2. 助成金額：1件5万円 4件以内

3. 期 間：1年間（第40年度：平成22年10月から平成23年9月）

4. 募集の対象

選考時に申請者が(社)日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者とします。なお、本研究助成を過去2回採択されたことがある場合は対象から除外します。また、(2)の条件を満たす者については選考時に考慮をいたします。

- (1)申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。
- (2)申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生（年齢制約はありません）。
- (3)申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で(社)日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象

品質管理に関連した研究を対象とします。

6. その他の申請条件

- (1)報告書は所定の様式で提出してください。
- (2)研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは原則として研究発表会などで発表することを奨励します。
- (3)学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

7. 申請の方法

所定の「(社)日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式は学会ホームページ（トップページ→お知らせ→理事会からのお知らせ）を参照し、メールに申請書を添付してください。

8. 募集期間：平成22年12月～平成23年3月末日

9. 選考方法

(社)日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

10. 決定通知

採択の場合、平成23年4月末に通知します。

11. 申請書提出先：(社)日本品質管理学会 本部事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506 FAX 03-5378-1507

E-mail: office@jsqc.org